

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


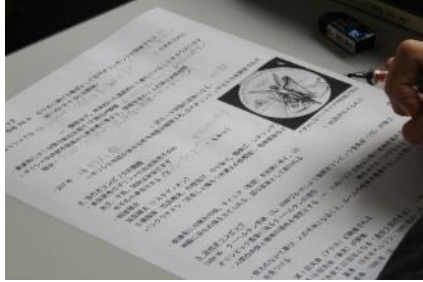
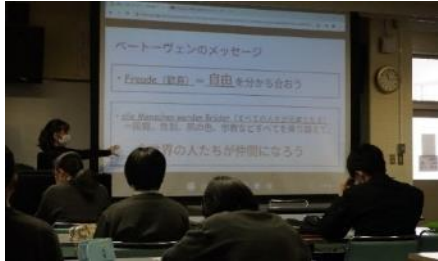

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立長野原高等学校 】

1 実践テーマ	①・②・③・④・⑤ (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<p>1 各教科における取り組み</p> <p>A 第3学年 (ビジュアル世界史選択者) 3名</p> <p>B 第1学年 (音楽I 2クラス) 計38名</p> <p>C 第2・3学年 (ものづくり基礎A・C選択者) 計13名</p> <p>※上記の取り組み以外に、体育科目においては選択者に「ゴールボール」の実技指導を行った。(別紙参照)</p> <p>2 図書委員会活動における取り組み</p> <p>図書委員会 (1～3年生) 19名</p> <p>全校生徒 (LHR) 98名 (夏季休業課題) 98名</p> <p>3 ピア・サポート活動における取り組み</p> <p>ピア・サポーター (1～3年生) 20名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (ビジュアル世界史・音楽I・ものづくり基礎A・ものづくり基礎C・LHR)</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 (図書委員会活動、ピア・サポート活動)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>1 各教科における取り組み</p> <p>古代オリンピックの学習、音学や建築物の鑑賞を通じて、オリンピック・パラリンピックの意義や歴史を学び、それらに関わる人々の持つ価値観について考えさせるとともに、多様性を尊重する態度を育成する。</p> <p>2 図書委員会活動における取り組み</p> <p>オリンピック・パラリンピック教育を多角的に行うことで、オリンピック・パラリンピックを身近に感じさせるとともに、書籍を用いて自国や世界の文化理解活動を行うことで、多様性を尊重する態度や共生社会への理解を高めさせる。</p> <p>3 ピア・サポート活動における取り組み</p>

	<p>授業や委員会活動と並行し、「自己・他者理解」「相手を尊重したコミュニケーション」についての講習を行うことで、多様性を尊重する態度を育成する。</p>
<p>5 取組内容</p>	<p>1 各教科における取り組み</p> <p>A 第3学年 ビジュアル世界史</p> <p>◎「古代オリンピックの開催理由や競技内容、慣習を学び、近代オリンピックに受け継がれるものへの理解を深める。」</p> <p>古代オリンピックは神聖な儀式であり、古代ギリシャに共通する価値観(善美であること)を示すために行われていた。これは、近代オリンピックのオリンピック憲章における「肉体と精神の調和」に通ずるものである。また、近代オリンピックでの様々な慣習(メダルのデザイン等)は古代ギリシャの運動競技に由来するものがあり、それらを知るとは、私たちの生活する社会は歴史の上に存在し、それをつくりあげた人々の努力の上に成り立っていることを実感させられる。</p> <p>古代オリンピックの学習を通じ、時代や世界観が異なっても人の求める理想像には共通するものがあることについて考えさせるとともに、オリンピック憲章に触れ、スポーツの意義、そして努力すること、他者を尊重することの重要性に関して理解を深めていく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>B 第1学年 音楽Ⅰ</p> <p>◎「ベートーヴェンが残したメッセージとは？ ～オリンピックとの共通点～」</p> <p>ベートーヴェンの交響曲第9番(第九)を鑑賞し、曲に込められたメッセージを考えた。第九に込められた「自由、平等、世界平和」などのメッセージと、「平和でより良い世界の実現に貢献する」というオリンピックの目標をからめ、ベートーヴェンのメッセージとオリンピックが目指すものとの共通点を考えた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>C 第2学年 ものづくり基礎A・第3学年 ものづくり基礎C</p> <p>◎「隈研吾について知る～新国立競技場を設計した建築家～」</p>

隈研吾とその建築の特徴から、建物と環境の関係、新しい木造建築や社会のニーズの変化について学んだ。また、「日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成」という目標とからめ、新国立競技場設計に込めたねらいについて考えた。



## 2 図書委員会活動における取り組み

### ◎オリパラ関連本紹介コーナーの設置

5月から県立図書館から授業支援セット「国際理解」を借り、図書委員会イベント班が中心となってポップを作成し、館内に「オリパラ関連本紹介コーナー（国際理解）」を設置した。個人貸出冊数は少なかったものの、図書室を訪れる生徒が手に取り、館内で読む姿が見受けられた。7月中は、さらに多くの生徒が手に取ってくれるよう、貸出時にプレゼントと交換可能なポイントをつける取り組みを行った。

1月現在、オリパラ関連授業やその他の取り組みを受け、新たにオリンピック・パラリンピック関連図書のコーナーを準備している。（司書・教科担当者に依頼し、オリパラ関連本の選定を行い、12月に本事業予算で書籍を購入。）



### ◎授業での活用のよびかけ

- ・全学年 LHR 「世界の国々を知ろう」

図書室の「オリパラ関連本紹介コーナー」を利用して、自国や他国の文化について学び、興味を持った事柄を紹介する活動。司書教諭と学年の教師からの「多様性を尊重する視点」について指導後、図書委員が作成したポップを参考に、興味を持った事柄について紹介メモを作成した。生徒が活発に意見交換し、複数の資料に触れたいと思えるよう、机間指導・声かけに配慮した。

活動後、全校生徒の紹介メモが貼られた模造紙は図書室前に掲示され、図書館を訪れる生徒が足を止める姿が見受けられた。夏休み以降も、司書教諭の協力で、模造紙の周囲にオリパラ関連新聞記事が掲示された。



◎生徒の興味を大会に向けた取り組み

- ・全学年 夏季休業課題 「スポーツが持つ力を考えよう」

夏季休業前に、HRで「オリンピック・パラリンピックの開催を機に、『スポーツの持つ力』『オリンピック・パラリンピックなど国際的な大会の魅力』について考えること」について指導し、夏休み中に調べ学習と感想を書く課題に取り組みさせた。(A4用紙1枚。上段：新聞記事等のコピー貼付欄、下段：感想記入欄)

スポーツが持つ力を考えよう	
学年 氏名	
学年	
氏名	
感想	

3 ピア・サポート活動における取り組み

- ・ 6月 9日「人との接し方～距離感～」
- ・ 7月 7日「上手な気持ちの伝え方 ～アサーション～」
- ・ 10月27日「EQについて知ろう①」
- ・ 11月24日「EQについて知ろう②」
- ・ 12月 8日「EQについて知ろう③」



6 主な成果

1 各教科における取り組み

- 古代と近代のオリンピックに関する知識を身につけた。また、スポーツが単なる娯楽ではなく、文化・社会・人間形成につながるものであることを理解した。(A ビジュアル世界史)
- 「歓喜の歌」はギターの授業で旋律を演奏したことがあり、授業以外の場面でも耳にしたことのある生徒が多かったため、興味をもって鑑賞することができた。授業の始めでは、「なぜ長野オリンピックの開会式で第九が演奏されたのか」という問いに対して答えることができない生徒が多かったが、最後には



「なぜオリンピックで第九が演奏されたのか詳しく知ることができた」「全世界の人たちが仲間になろうというメッセージが素晴らしいと思った」「この願いが早く実現してほしい」「今も大切に歌い続けられているのがすごい」「メッセージを知った後もう一度聴くと聴き方が変わった」などと考えを深めることができた。(B 音楽I)

## 2 図書委員会活動における取り組み

- 図書委員の生徒がポップを作成したことによって、オリパラ関連本を手にする生徒が増えた。
- 「世界の国々を知ろう」の活動を通じて世界の国々への興味が高まったようで、「～に行ってみたい」「～という風習を知っていますか？」などと、新しく得た知識について話していた。
- 紹介メモと新聞記事を図書室前の生徒の目がとまりやすい位置に掲示したことで、オリンピック・パラリンピックを身近に感じるようになった。図書室を訪れる生徒が、「開会式を見た?」「～の試合は見たよ。」などと話す姿も見受けられた。
- 夏季休業中課題「スポーツが持つ力を考えよう」も授業の事後学習としても有効であった。教科指導や図書館学習で学んだことを元に、一人一人がオリンピック・パラリンピックに関心を持ち、スポーツの持つ力を考えられていた。

### 〈生徒感想抜粋〉

- ・石川選手の試合は見ていて声が出るほど楽しいです。プレーも凄くて見入ってしまうのですが、ダブルスの決勝に緊張する平野選手を笑顔で励ますことができるということが本当に凄いところだと思います。
- ・大会で入賞して得意になるのではなく、どんどん高みを目指すスタイルが好きで、高橋侑子選手のレポートを書きました。
- ・ソフトボール日本は最後まで諦めなかったから金メダルを取れたのだと思います。上野由岐子さんとチームを見て、チームワークと諦めないことの大切さを学びました。
- ・本多灯選手の「相手への敬意」が素晴らしいと思いました。
- ・ボクシングには興味が無かったのですが、入江選手の「試合が止まるたびに審判にお辞儀をし、試合の後に相手のコーチにもお辞儀をする。」というニュースを見て、こんなに礼儀正しい選手がいるのかと、試合に興味を持ちました。
- ・レスリングの川井姉妹が、2人で金メダルを獲得しようと努力してきたことを知って感動した。親子でとか、コーチと二人三脚は聞けけれど、姉妹で同じ夢を目指すところに魅力を感じた。
- ・スケートボードの西矢選手がまだ13歳なのに大舞台で堂々としている姿がかっこ良かったです。
- ・柔道の阿部兄妹が同じ日に金メダルをとれたのは、ただのライバルと違い、兄妹だからこそ特別互いに負けられない気持ちがあるからだと思った。

## 3 ピア・サポート活動における取り組み

- 自分と相手の感じ方、考え方の違いに気づき、その理由(経験や文化的背景を含む)を考える活動を通じて、相手の言葉や態

	<p>度をそのままに捉えるのではなく、相手の意図を理解しようとするのが重要だと理解できた。また、相手が自分とは異なる受け取り方をする可能性を考え、よりよいコミュニケーションについて考え、意見交換することができた。</p> <p>〈生徒感想抜粋〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•みんなと考えを共有してみて、いろいろな感じ方があると知りました。このことが切っ掛けで、もっとみんなの考え方を知りたいと思いました。</li> <li>•相手の意見を大切にしながら、自分の思いを伝えられるように毎日の会話で気をつけていきたいです。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○古代オリンピックについて単純に学ぶのではなく、近代オリンピックにつながるものや人間の道徳的価値観に触れるように授業展開をした。(ビジュアル世界史)</p> <p>○オリンピックの開会式で第九が演奏されたのはなぜか、という問いについて考えることで、両者の共通点に気づき、考えを深められるよう授業展開を工夫した。(音楽Ⅰ)</p> <p>○本校の生徒は、図書館での活動に意欲的であり、他の生徒の取り組みに対して関心が高い。そのため、教科以外の実践の場として図書室に協力を依頼し、生徒中心の活動を企画した。実施に当たっては学校司書の協力のもと、図書委員イベント班を中心とした活動と一般生徒が活躍できる活動に分け、実施後もオリンピック・パラリンピックへの意識が継続する活動を企画した。(図書委員会活動)</p> <p>○ピア・サポート参加生徒の中には、人とのコミュニケーションを苦手とするものも多い。そのため、12月に「多様性を尊重したコミュニケーションを考える」に到達するよう、SCと教育相談部と連携して講習を計画した。また、関心のある生徒が気軽に参加できるよう、1回で完結する内容の講習も計画に含めた。(ピア・サポート活動)</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○単純に古代と近代のオリンピックの紐付けをするだけで授業を終えない様にする。こと。(ビジュアル世界史)</p> <p>(例)時代を超えて、人がスポーツに何を見いだすのか、その背景にある価値観とは何かといった道徳的教育的なものを中心に置いて授業展開をする</p> <p>○ベートーヴェンが第九に込めたメッセージについて、生徒がより主体的に考えられるような工夫をする必要がある。(音楽Ⅰ)</p> <p>○コロナ感染予防の観点から、生徒が活動内容について話し合う時間を十分に持てなかった。生徒主体の活動とするためにも、可能な範囲でのICT機器の活用を考えていきたい。(図書委員会活動、ピア・サポート活動)</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>自国開催にこだわらず、歴史や意義を学ぶことで、道徳的気づきにたどり着けるように実施していく。</p>



# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立長野原高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒 98名 (1年生 39名 2年生 38名 3年生 21名)</li> <li>・ゴールボール実施生徒 15名 (各学年 5名)</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名 ( )</li> <li><b>②</b> 行事名 (スポーツフェス)</li> <li>③ その他 ( )</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イベント名 ( )</li> <li>② その他 ( )</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<p>パラリンピック正式種目であるゴールボールを実体験させ、また競技を観戦させることにより、パラリンピック種目への興味・関心を高め、パラスポーツを楽しむ心や理解、共生社会を構築する意義や態度を養う。</p>
5 取組内容	<p>○スポーツフェス (球技大会)          日時：令和3年12月22日          場所：長野原高校体育館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内球技大会であるスポーツフェスにおいて、ゴールボールをその内の一種目に取り入れ、実施した。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

	<p>○事前学習として、体育の授業などを用いて、各学年のゴールボール実施生徒に対し1時間程度の実技指導をおこなった。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○スポーツフェス終了後、実施生徒に話を聞くと、「目が見えない状態で音だけでボールが迫ってくるを感じなければいけないので、怖かった。が、楽しかった。」「選手はすごい」「もう一度やってみたい。」との話が聞けた。また、観戦した生徒は「見ていて面白かった。私もやってみたい。」「体育の授業でやってみたい。」と話していた。</p> <p>○実施生徒については、ゴールボールへの興味・関心を高めることができ、パラスポーツを楽しむ心と尊重する態度を養うことができたと考える。また、観戦生徒についても興味・関心を高めることができ、パラスポーツを見て楽しむことができたと考える。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○実施をするにあたっては、簡易ルールを考案し、実践した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○ゴールボールを実施するにあたっては、ボール1球とアイマスクを購入してもらい、簡易ルールを用いて実施した。正式なルールでおこなうためには、攻守がめまぐるしく入れ替わる際に、自分がどの位置にいるのかを把握しなければならないため、特にゴールポストを用意する必要がある。生徒の実態と各校の実態に合わせてルールを柔軟に検討し、生徒が楽しめるような工夫をしていくことが必要であると感じた。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○延期された東京オリンピック、パラリンピックが2021年8月に終了した。東京大会でおこなわれたさまざまな種目への興味・関心が薄れていくことがないように、来年度以降も引き続き、本校の実態に応じて、体育的行事や体育の授業等でパラスポーツ種目を実践していきたいと考えている。</p>